



今年もあと2か月、世界中を巻き込んだ新型コロナウイルス禍はどうやら年を跨ぐことになりそうです。今月はアメリカ大統領選挙や東京オリンピックの開催についての最終判断など、来年の世界情勢に大きな影響を与える出来事がある注目の月になります。

さて我が国では9月の首相交代で、国政に新しい動きが出てきましたが、その中で大きな話題となっているものにデジタル庁の新設があります。世界レベルから見て周回遅れと言われていたわが国のデジタル対応レベル。新型コロナへの対応で官民共に浮彫になってしまったこの話は、行政や企業だけのものではなく、私たち日本のロータリーの世界にも当てはまる話でした。

我が国では近年、RIの大きな変化を理解できないとか、とてもついていけないとかいう声があちこちで聞かれましたが、これも大きく遅れをとっているデジタル対応と同じレベルの話ではないでしょうか。

1905年に我がロータリーを立ち上げたポール・ハリスは、1927年ベルギー・オステンドでの国際大会でおこなった挨拶で「ロータリーの奉仕理念は哲学ですから、万古普遍のものであり、みだりに変えるべきではありません。いや、絶対に変えてはなりません。しかし奉仕の実践は、社会のニーズに従って大胆に変化させなければ、誰からも頼りにされないばかりか相手にされません。また奉仕の理念を持って生き残りを賭けるならば、社会の変化に沿ったクラブの管理運営方法を考えねばなりません。そして、ロータリーが奉仕の理念を貫こうとするならば、常にパイオニアとして新しい試みに挑戦し続けることが必要なのです。」と述べています。まさにわが国の諺「不易流行」そのものです。

今、このコロナ禍では奉仕の実践については、従来行っていた国を越えての奉仕活動や、多人数の行動参加がやり辛くなっているのは事実です。またこの経済状況の中での会員増強には厳しい逆風が吹いているとも言えます。しかしながら、より魅力ある自分たちのクラブ作りや、地区の管理運営方等所謂ソフト面については、思いつき見直しいいチャンスとも言えるのではないのでしょうか。自分たちのクラブや地区の管理運営方が、社会の変化に沿ったものになっているかどうか？新しい会員を迎えることにふさわしいものになっているかどうか？

これからの時代は何をするにも否応なしにデジタルとデータ、すなわちD系の時代である一方、それを活用するにふさわしい体制、すなわちソフトがシッカリしていることが今まで以上大切になってくる時代です。

まだ暫くは続くであろうこのピンチの時を、我々ロータリーの奉仕の理念を貫くにふさわしい新しい体制作りを確立するチャンスに変えようではありませんか。

第2地域 ロータリーコーディネーター補佐 神野 重行（名古屋名駅RC）



第二地域ARPIC2期目の2600地区・佐久RCの原拓男です。皆様と共に勉強しながら公共イメージと認知度の向上に努力したいと思います。

さてコーディネーターニュース10月号で第1地域、寺嶋哲生ARPICが三地域合同オンラインセミナー報告を行いました。辰野克彦RI理事はセミナー冒頭の挨拶でアフリカでポリオが根絶されたがマスコミ報道でロータリーの果たしてきた功績が触れられなかった事を指摘され未だロータリーの公共イメージの向上が手法として不完全である事に対する反省の弁を述べたと紹介しました。合同セミナーでは公共放送であるNHKがニュースなどでロータリーを扱ってくれる事が重要だという意見がありました。幸い私はロータリーが縁でNHK関東甲信越番組審議会委員長を拝命しており辰野克彦RI理事、服部陽子第二地域RPICと連携してNHKの幹部に直接色々なアプローチを行いました。

先ずRIのブログ「ロータリーボイス」に掲載されている10月24日の世界ポリオデーに行われる世界や日本のイベント情報やロータリーが今まで如何にポリオ根絶に貢献して来たかの資料を提供しました。またポリオ根絶は1982年日本の2580地区（東京・沖縄）の麴町RCが創立15周年事業として会員の山田ツネさんと峰英二さんを中心に「南インド・ポリオ免疫プロジェクト」を行った事が始まりで国際ロータリーの最優先目標「ポリオ根絶」は日本のロータリークラブから始まった事などの資料も提供しました。私たちが提供した資料でNHKがロータリーをどの様に扱ってくれるかは判りませんが少なからず扱ってくれる事を期待しています。しかしこうしたマスコミを活用する事も重要ですが私たちロータリアンがロータリー財団や米山記念奨学会が長年、世界でどんな良い事をして来たかを学び身近な人たちに伝えて行くミニコミも非常に大事だと思っています。

辰野克彦RI理事はこの問題に対しRIに質問を行いました。返事の一つにロータリーによるポリオ根絶活動の話題を広げるにはクラブ、会員、RPICによる地元メディアへの働きかけに期待していますとあります。私たちに出来る事を行い公共イメージと認知度が向上すれば会員増強に繋がります今以上に社会に貢献できるでしょう。

第2地域 ロータリー公共イメージコーディネーター補佐 原 拓男（佐久RC）